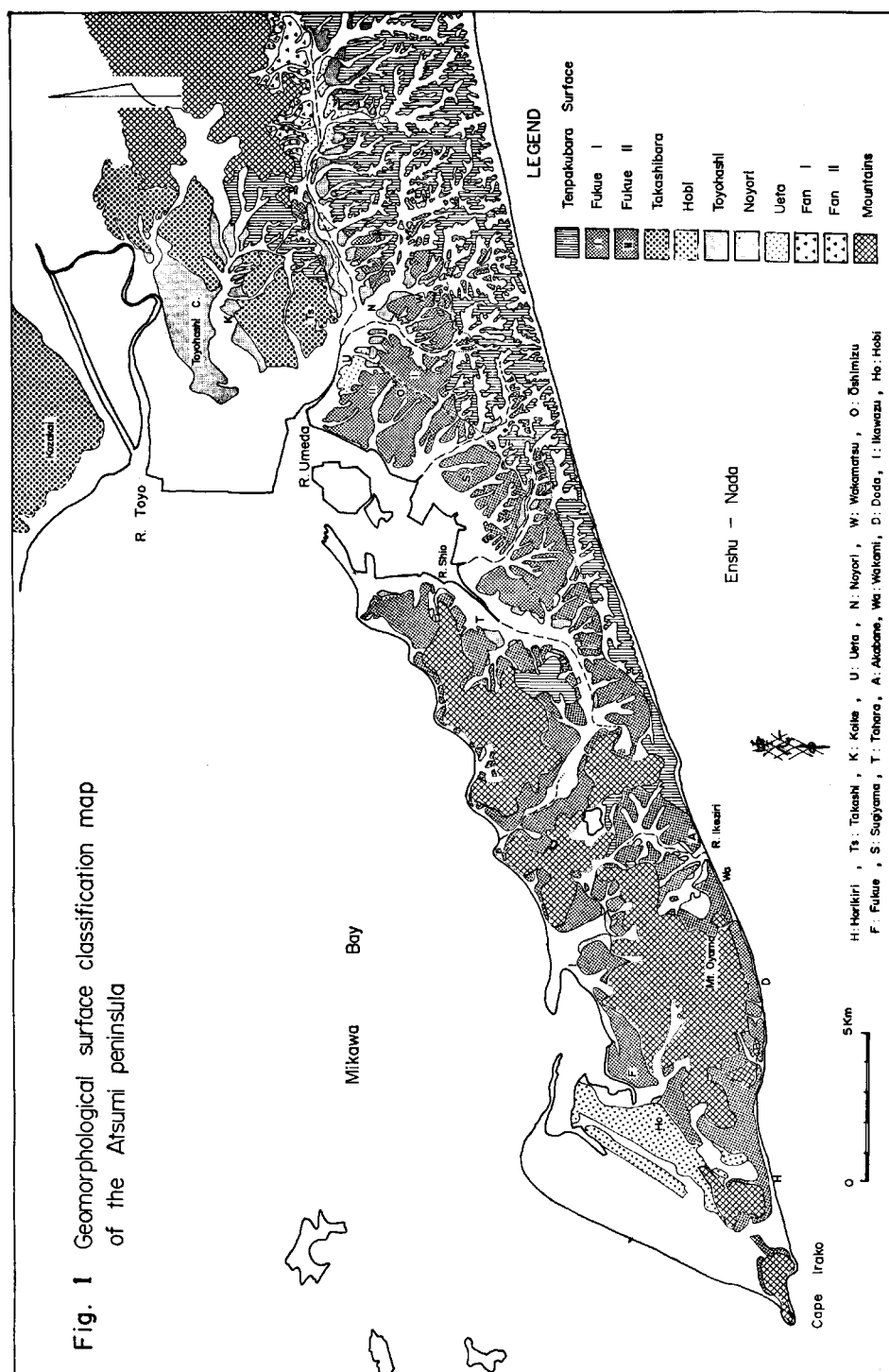


## 渥美半島とその周辺地域の段丘地形

星 合 克 代

渥美半島とその周辺地域に発達する段丘地形を調査し、各段丘面の対比と形成時代について考察した。

- Ⅰ 渥美半島及びその周辺地域の段丘面は上位から天伯原面、福江Ⅰ、Ⅱ面、高師原面、保美面、豊橋面、野依面、植田面に分類できる。各段丘面の分布は第1図に、編年表は第1表に示す。
- Ⅱ 天伯原面は海成段丘面で、いわゆる渥美累層の堆積面である。渥美曲隆運動の影響を受け東北東～西南西方向に高度を減じている。
- Ⅲ 福江Ⅰ、Ⅱ面は海成面である。砂岩、チャート礫を主体とする堆積物は波食台的な層厚、層相を示すことがほとんどであるが、谷埋め、1サイクルの海進の層相を示す地域も一部にみられる。堆積物の厚さは周囲の地形と位置に大いに影響を受けるが、おおむね東に高く西に低くなる地盤運動によって規定される。堆積物の厚さ(第2図)及び基底面高度の変化(第3図)は渥美曲隆運動の性格を反映している。また、堆積物の基底高度、段丘面のプロファイルなどから、従来1地形面とされてきた福江Ⅰ、Ⅱ面に分けることができるかも知れない。そして両者の関係が南関東の下末吉面と小原台面の関係にあると考えるならば、従来出されている渥美曲隆運動の量は若干小さくなる。
- Ⅳ 高師原面は厚さ約2～10 mのいわゆる高師原礫層からなる河成面である。堆積物の基底高度、深井戸資料、東海道新幹線のボーリング資料などから考えて、従来の見解とは異なるが、高師原礫層は福江Ⅰ、Ⅱ面を形成する海成層には完全には対比されず、やや高師原面の形成が福江Ⅰ、Ⅱ面よりも遅れた。
- Ⅴ 保美面は渥美半島西端部にのみ分布する海成面である。渥美曲隆運動量と地形面の高度と性格から判断して、形成時代は豊橋面よりは古く、高師原面に最も近い。
- Ⅵ 豊橋面はいわゆる豊橋礫層からなる河成面である。高師原面をstrathした侵食面的性格が強い。
- Ⅶ 野依面は渥美半島の台地を刻む諸河川とその支流にそって分布する河成面である。渥美曲隆運動の影響をうけて半島東部にのみ分布する。地形発達の順序、段丘面の縦断プロファイルからみて豊橋面に対比できる。



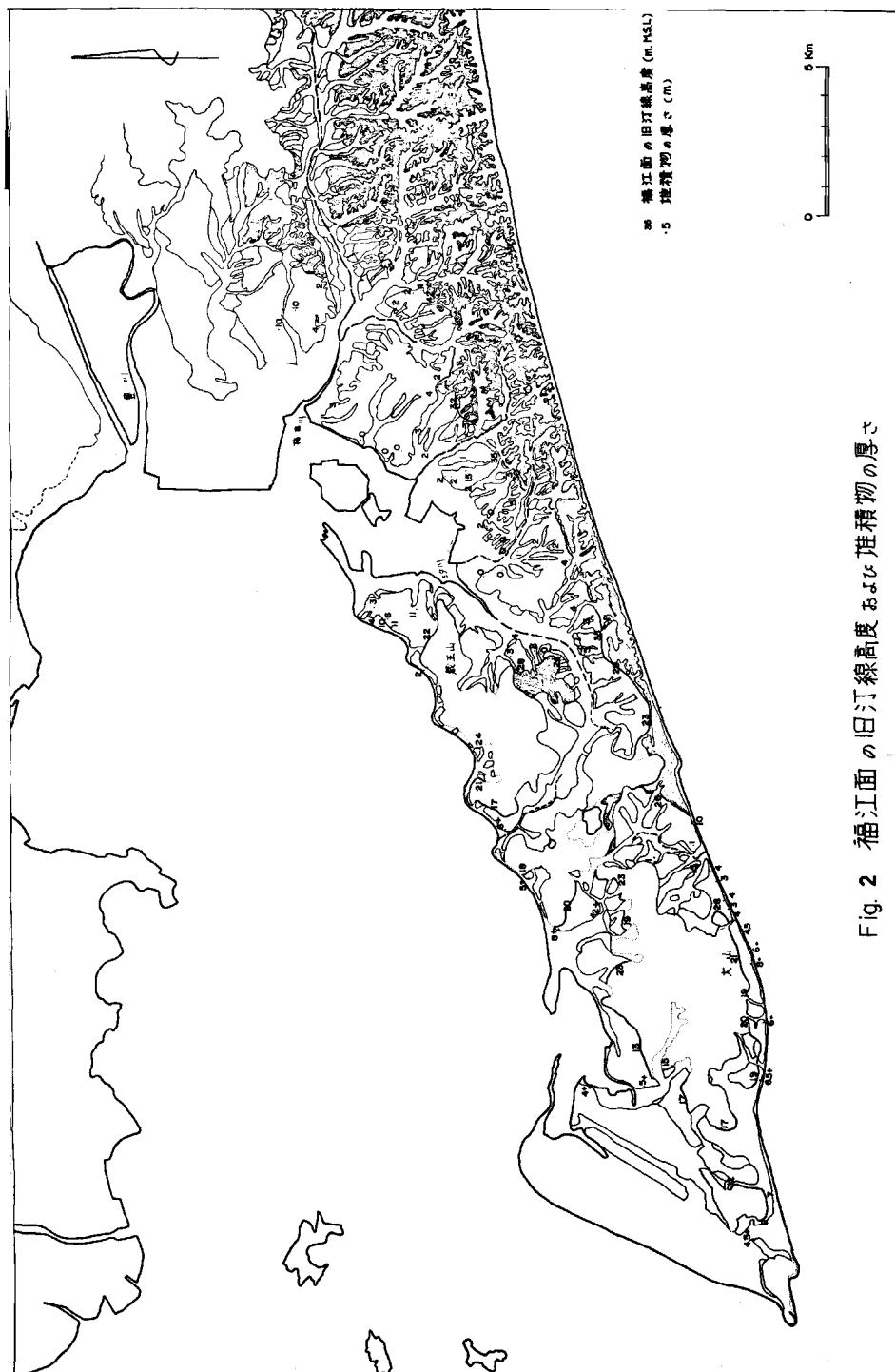


Fig. 2 福江面の旧汀線高度および堆積物の厚さ



Tab.1 編 年 表

絶対年代	この論文(地形面)		海水準変化						南 関 東	
	河 成 面	海 成 面	40	20	0	-20	-40	-60	三 浦 半 島	武蔵野台地
									町田・鈴木(1971)	杉原ら(1972)
×10 <sup>4</sup>										
2	植 田 面								立 川 面	中 台 面
4	{ 野 依 面 豊 橋 面									
6	{ 高 師 原 面 小 坂 井 面	保 美 面 ↓							三 崎 面	赤 羽 面
8		福江Ⅱ面 ↓							小 原 台 面	成 増 面
10										
12		福江Ⅰ面 ↓							下 末 吉 面	淀 橋 面